

日本最大級の総合物流ターミナル「羽田クロノゲート」

2013年9月20日、日本経済の成長戦略を支える「バリュー・ネットワーキング」構想（＝“Value-Networking” Design）の中核をなす羽田クロノゲートが竣工した。

「羽田クロノゲートは、陸海空のスピード輸送と24時間365日稼働の付加価値機能を一体化した、日本最大級の物流ターミナルです。従来のように在庫を滞留させるのではなく、常に物が流れ続け、流れる過程で価値を付加しながら、アジアと国内のネットワークをスピーディーに結節させます」

ヤマトグループの木川眞社長はこう解説する。

「流れる過程で価値を付加」とするとはどういうことなのか。いよいよ動き出す羽田クロノゲートをご紹介したい。

最新機器と立地を活かした陸海空の「スピード輸送」を実現

羽田空港に隣接し、東京港や横浜港にも近く、さらにはJR貨物のコンテナターミナルや首都高速へのアクセスも抜群。陸海空のあらゆる輸送手段が効率的に活用でき、日本国内はもとよりアジアともシームレスに繋がる。

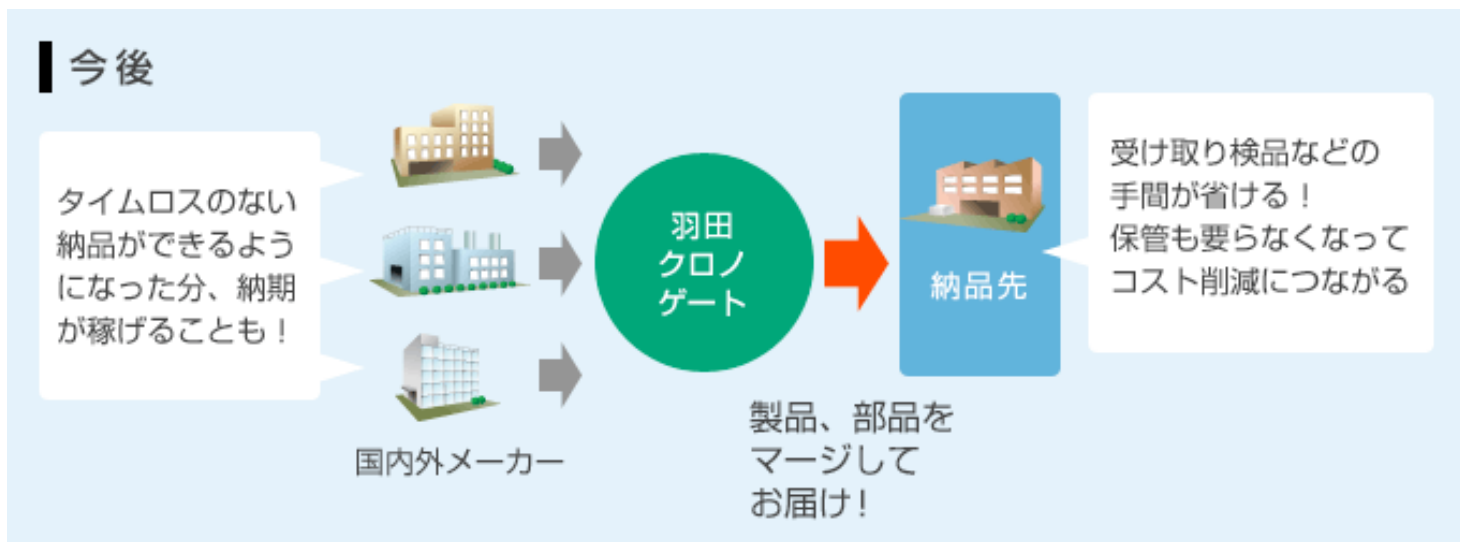
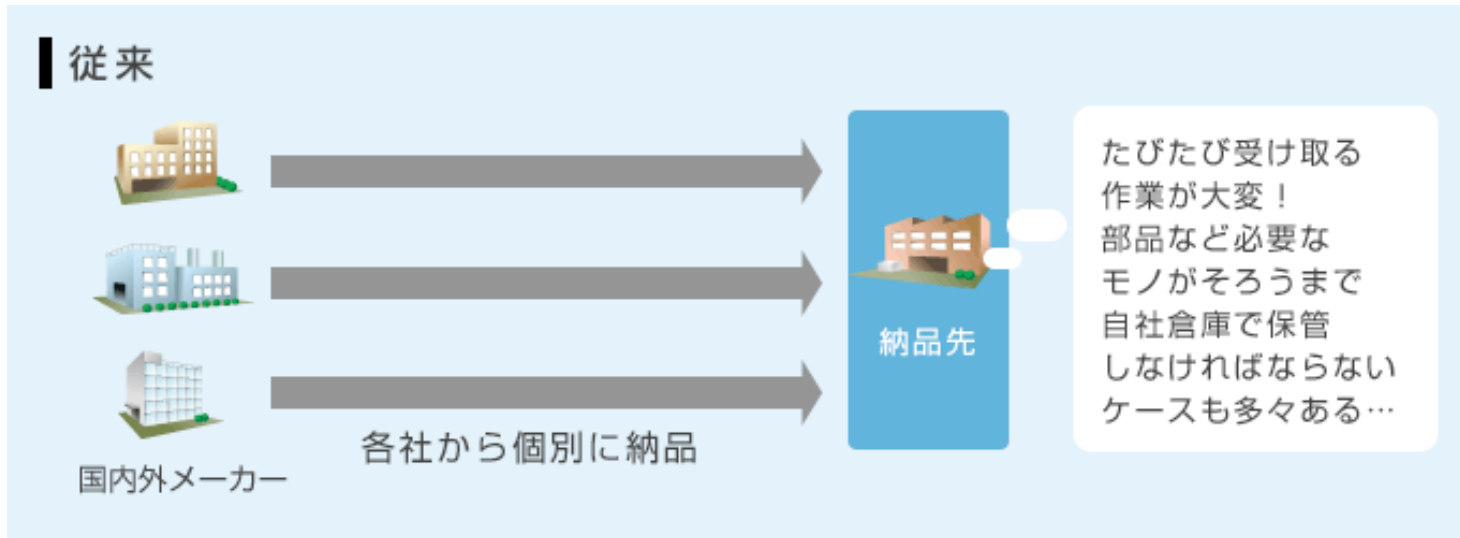
さらに、最新のマテリアルハンドリング機器を導入、24時間365日の稼働を可能にした。発着同時仕分けを行い、常に物が流れ続けるスピード輸送を実現する。

物流の過程でさらなる価値を加えて届ける「付加価値機能」が最大のポイント

羽田クロノゲートではスピード輸送に加えて、物が流れる過程で新たな価値を付加することができる。主だった5つの付加価値機能について解説したい。

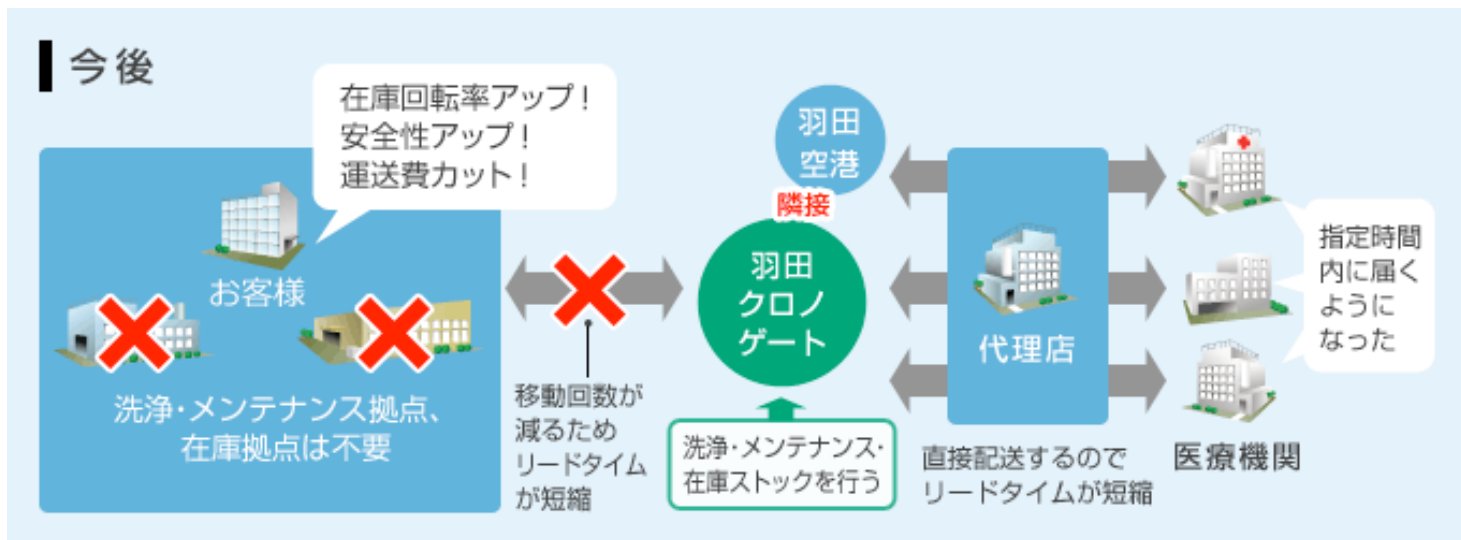
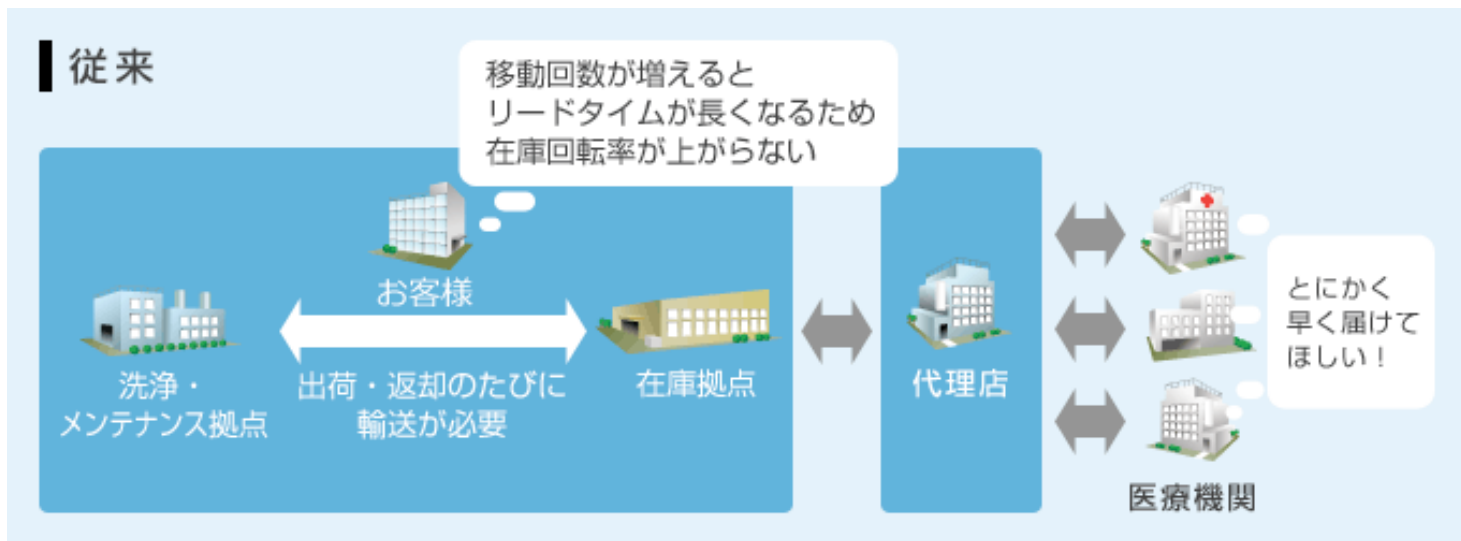
1. クロスマージ

国内外から調達・納品される製品・部品などを、納品先ごとにまとめて出荷。納品先にとって、バラバラだった納品への対応の手間が省け、生産性の向上が期待できる。



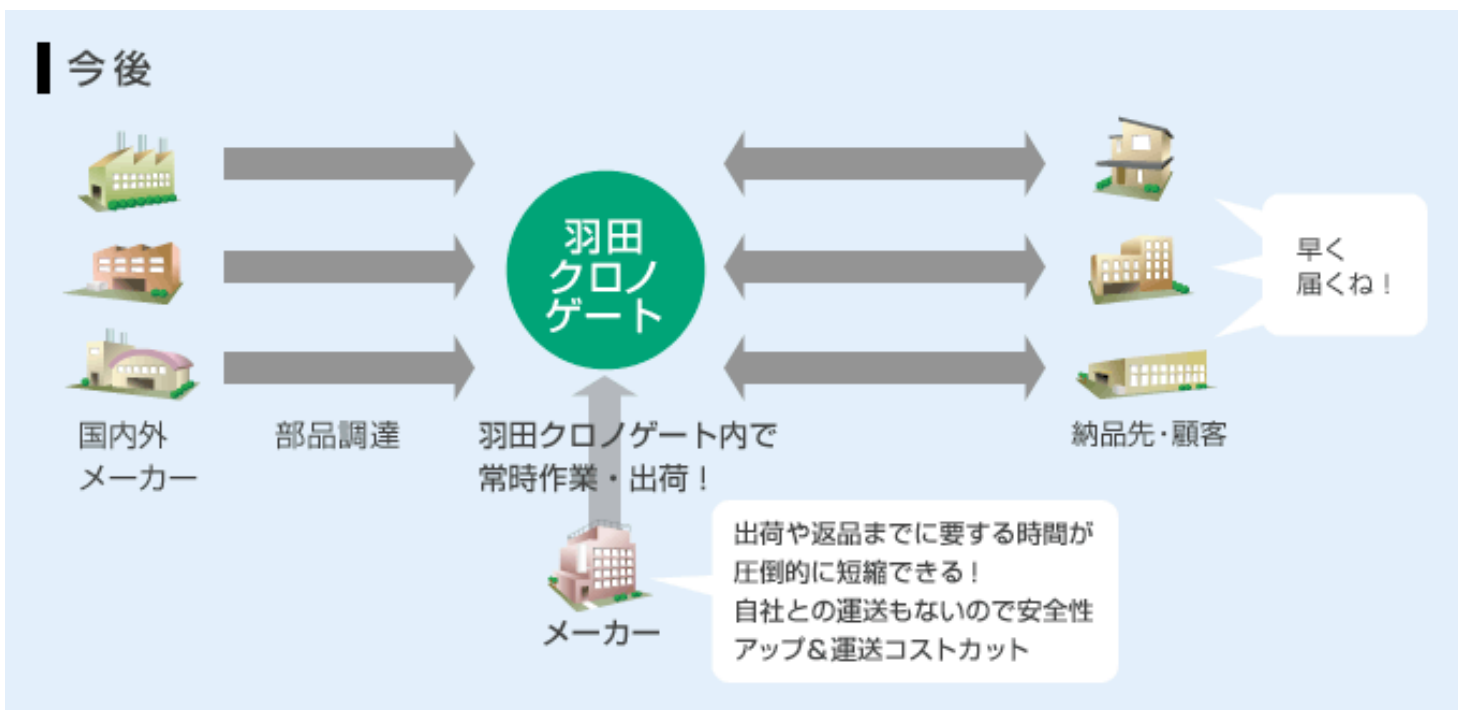
2. 医療機器の洗浄・メンテナンス

全国の病院で利用される医療機器や医療用器械を、羽田クロノゲート内で洗浄・メンテナンスし、ストックすることが可能になる。手術で使用された医療機器や医療用器械を回収し次の配送先へ送るフロー上で洗浄・メンテナンスの処置を行うことで、在庫拠点と洗浄・メンテナンス拠点間の搬送などといったリードタイムが短縮でき、回転率の向上、流通在庫の圧縮が期待できる。



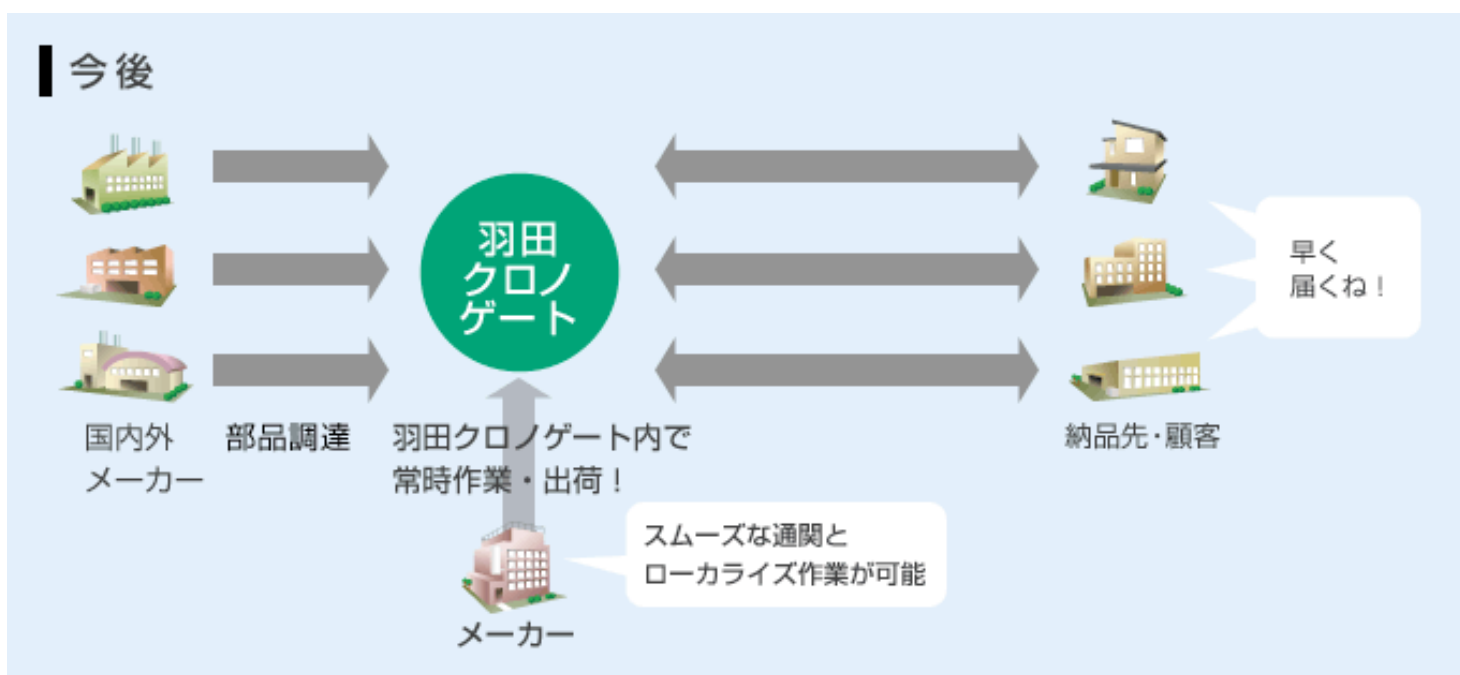
3. キットイング、アッセンブル、メンテナンス、修理

複数の国で製造された製品や部品を、羽田クロノゲート内で輸入通関し、組み立て（キットイング、アッセンブル）やメンテナンスなどの作業を行う。部品や製品の作業拠点への搬送を省き、スピード出荷を実現する。



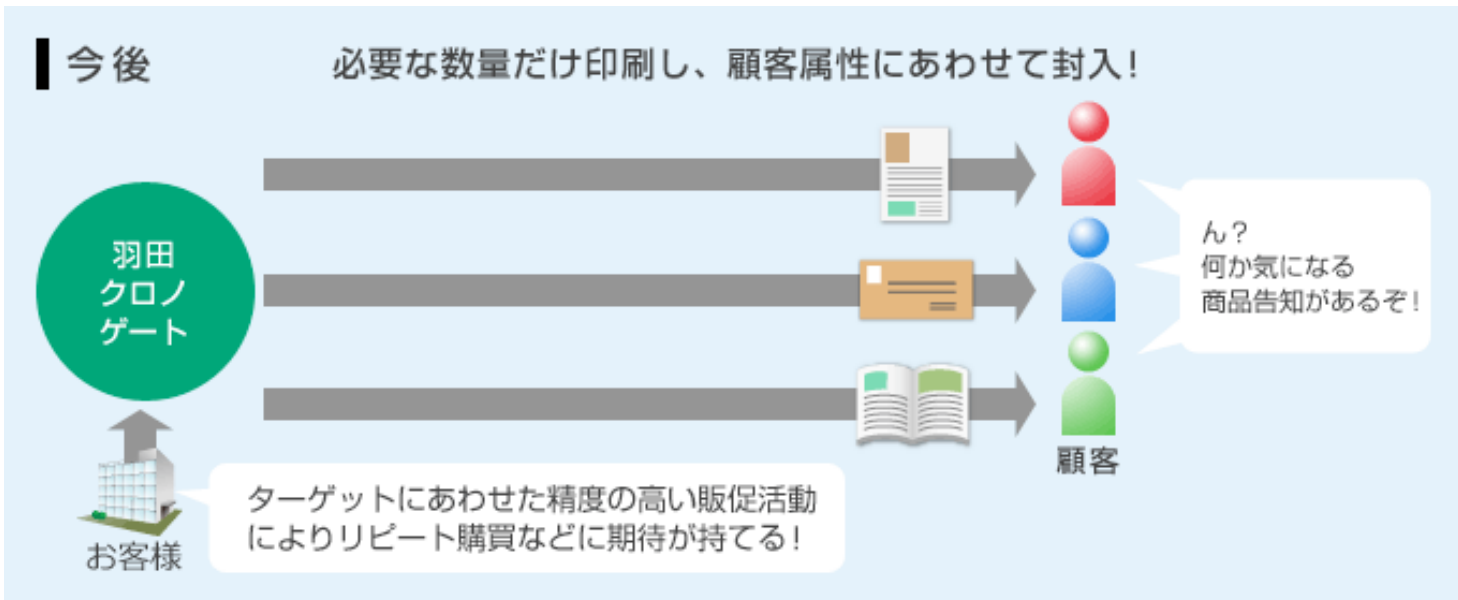
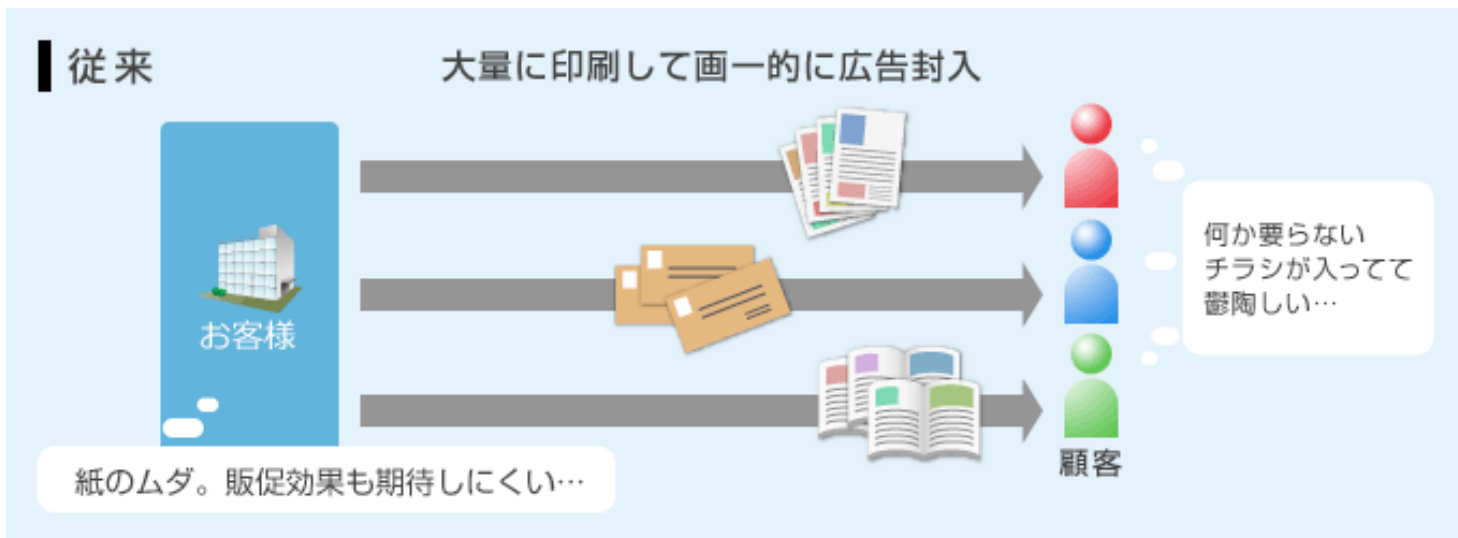
4. スピード通関、保税、ローカライズ

輸入した荷物を外国貨物のまま運び入れ、輸入通関、検品、ローカライズ（日本語のラベル貼り付け、説明書添付など）、出荷といった作業を羽田クロノゲート内で行う。スムーズな輸入通関に加え、作業の為に拠点へ搬送する必要がなくなり、リードタイム短縮、運送コスト削減、安全性向上が実現する。



5. オンデマンドプリント

オンデマンドプリンターで、商品受注後に必要なダイレクトメール（DM）やパンフレットを必要な数だけ印刷し、顧客の年齢層や性別、購買履歴（好み）などにあわせて封入することが可能になる。印刷コストと紙資源のムダを抑えながら、ターゲットをより明確にした販促活動をワンストップで実現可能とする。



スピードと安全性を飛躍的に向上させ、新たな価値を付加しながら、顧客のトータルコスト削減をも実現する。スピード×品質×コストを新たな次元に高めることで、物流に改革をもたらすのが羽田クロノゲートであり、日本のものづくりを支える「バリュー・ネットワーキング」構想を推進するエンジンである。

今後様々な事例をご紹介するとともに、現場で見られる効果、喜びをお伝えする予定もあるので、ぜひご期待いただきたい。

(掲載内容は取材時のものです。部署名及び役職名は、現在のものと異なる場合があります)